室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置実施計画（案）地域説明会

〇日　　時：　令和５年７月６日（木）
〇場　　所：　佐喜浜生活改善センター
〇市出席者：　百田教育長、山本教育次長兼学校教育課長、村上課長補佐、髙﨑班長
〇参加者数：　８人

（髙﨑）
それでは、定刻となりましたので、室戸市保育所及び小中学校の適正規模・適正配置についての地域説明会を開催します。
まず初めに担当者の紹介をさせていただきます。教育長からお願いします。
　≪担当者挨拶≫
（髙﨑）
この説明会では、令和２年度から検討を始めた室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置について、実施計画案を作成しましたので、その内容について説明させていただきます。
なお、この説明会は記録作成のため録音させていただきますのでご了承ください。
それでは説明会を開催させていただきます。まず教育長から挨拶をお願いします。
（百田）
どうもみなさんこんばんは。
大変お忙しい中、また、お仕事の後、あるいはお子様の夕食等の準備等、色々ご多用の中をこの会に参加していただきまして、どうもありがとうございます。
先ほど、司会の方が申しあげましたが、この室戸市保育所及び小中学校適正規模・適正配置につきましては、最終決定は、今後のですね、教育委員会と市長との教育総合会議で、最終的な計画が決定されますが、その前の実施計画の案を作成しましたので、再度それぞれの地域のですね、要望とか、ご意見を聞いて、総合教育会議に望みたいと思っております。どうか遠慮のないご意見を出していただきまして、今後の案の決定に、参考にさせていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。
（高﨑）
室戸市保育所及び、学校適正規模、適正配置の実施計画案について、課長の山本より説明させていただきます。
（山本）
　≪資料に沿って経過説明≫
（高﨑）
はい。それでは、先ほどの、説明で質問のある方いらっしゃいましたら、手を挙げていただけたらと思います。
（参加者）
●●と申します。よろしくお願いいたします。
前回の説明会にも参加させていただいたんですけれども、その、抜粋っていう形ではなく、議事録を必ず教育委員会のページに開示してくださいということを、お願いをしていたと思うんですけれども、そこに上がってないように思うんですが。我々としては、各地域の

意見も、包み隠さず知らせていただきたいなと思って、他の地域の方々がどういう風に考えてるのか、そういう希望を出したと思うんですけれども、市民に対して、議事録すら開示しないというのは、ちょっと問題があるんじゃないかなと思ってます。それがまず１点目で、えっと、２ 点目としては、アンケート調査を実施して、小規模校とか一定規模の学校になるとか、市内全体の学校を統合するっていうことで、統合案が多いから統合の方に行きましたっていう説明のように聞こえたんですけれども、これあくまでも、学校として統合するっていうことで、捉え方によっては、小中が統合して小中一貫校として統合するという案の風に考えて回答した方もいらっしゃるんじゃないのかなぁと思うんですけれども、この回答から統合の意見が多いからっていうのはちょっとおかしいじゃないかと思うのと、あと、これも令和３年の、２年前のアンケートに基づいていて、その時と、父兄の形成も違いますし、意見も室戸市の状況を見ながら意見が変わってきてる方々もいる思うのに、あの、どうして直近のアンケートを取らないのかなというところでちょっと疑問を感じています。
あと、あくまでもこれは実施されることが決まっての説明会なのですかっていうことを散々、父兄の方から、聞いてきたと思うんですけれども、いつの間にか、実施計画としても実施されるものという前提になってること自体も、我々市民からしたら、あの、 大変驚きなんですけれども、その辺りは、もう一度詳細に解説していただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

（山本）

まず、議事録の開示についてですけれども、各地域での説明会の意見を、それぞれ要約した、意見書っていうのは、議事録に近い形の資料っていうのは、作っております。それについて、これまで、開示というか、皆さんにお知らせしてなかったことについては、これはもう反省すべき点であったと思いますので、昨年の意見についてもですね、やはり皆さんにこういった意見が出たっていうところは、少しちょっと遅くなったんですけれども、それは、提示はしていきたいという風に考えております。
それと、アンケートの件ですけれども、このアンケートの内容が、統合ありきということでは聞いてはおりません。選択肢の中でもやはり地域に学校を残してほしいというような項目も設けておりますし、まずはその、令和２年の 11 月に立ち上げた、検討委員会を設置して、1 回目の会をやった後ですね、やはり委員さんからも、やはり保護者の方にアンケートを取るべきだということで、実施したものでございます。まだこの時点では、その統合、統廃合を行うというようなところは示されておりませんので、このアンケート自体についても、あくまで、その保護者の方の ご意見を聞くというようなところでとったものでございます。今回、その実施計画になっていると、決まっているんじゃないかいうところですけれども、今までこう、令和２年度から、その検討委員会、アンケート、それから経営計画を踏まえた地域での説明会を開催してきてですね、３ 年が経過する中で、一定その方向性を出す時期に来ているという風な判断を私たちはしたところでございます。今回の実施計画案につきましては、今後５年間の方向性を定めた内容と、なっております。この後詳しく説明させていただきますが、今回の実施計画の、実施計画案では、中学校については、令和 10 年 4 月 1 日から４つの学校を一斉に統合して、新たな統合中学校として、スタートする内容ということになっております。

この学校も統廃合についてはですね、やはりそれぞれ地域の方の思いとか、それぞれの保護者の方の思いというのがあってですね、やはり賛否両方が、あって当然なものかな、という風に考えています。
そのような中で、こう、１つの方向性を決定する、判断についてっていうのは、 私たちも非常に大きな責任を担っているなという、気持ちは持っているところでございます。
できれば、この地域に学校を残したいという思いというのは、ここにおられる全員が持っておられる、気持ちだという風に思います。
その中でですね、やっぱりこの生徒の減少とか南海トラフ地震の確率がより高まってきている中で、こうした時代の変化の中で、室戸の子供たちにとって望ましい学校っていうのは どういうものなのかという、望ましい学校というのはどういう風にあるべきなのかということを、考えた時に、教育委会が 出した結論が、４つの学校を統合して新たな統合中学校としてスタートさせるということになりました。
今日、おそらくこの案について皆さんからやはりいろんな、意見が出てくると思います。その意見につきましては、今後の統合中学校のあり方とかを考える上ですごく大事なものだな いう風に考えております。特に、統廃合に賛成できないという方のご意見については、やはりそれは大事にしていかなければいけないと。そういう意見は、やはりそのまま 統合中学校を作る場合のその課題としてどうしても考えなければいけない課題であるという風に思っています。
今日の会ではですね、私たちが出したその結論のこう考え方についてお聞きいただいて、それについてこう皆さんに意見をいただきたいという風に考えておりますので、あの、ちょっと答えになったかどうか、わからないんですけれども、お願いしたいと思います。

（高﨑）

はい。他にありませんか。

（参加者）

すいません、ちょっとあんまり、あの、納得感はないんですけれども。あの、最後におっしゃてった、反対している方々の意見については、統合した学校のあり方を考える、
うえで、今後の課題として考えていかなければいけないとおっしゃってたんですけど、 ちょっとこれ、大変引っかかりまして。これ、課題として考えるのは統合を決定する前じゃないですかね。あの、例えばなんですけれども、あの佐喜浜で我々が個別に、市がアンケート調査をして、その結果を適正に回答してくださらない、我々、独自にアンケートを取った結果として、例えばですけど、じゃあほんとに地震、津波の災害があった時に確実に佐喜浜に入る道路が寸断されると、その中で子供たちに何週間も会えない状況があるかもしれないと、じゃ、この課題に対して検討もせずにあなたたちは、中学校を統合することを決定していいんですか。
ご回答を緑の紙へなんか書いてましたけど、こういう一般論ではなくって、じゃあ、その場合にどういう風に生徒らを帰宅させるのか、 安全にその避難、避難場所というか、その中学校にとどまらせるのか、その時、どういう風に誰がその子供らの面倒を見てくれるのか、じゃあ、安否確認を保護者に伝えるのかとか、そういうことを事前に決めてから、統廃合の計画をすべきじゃないのかと思うんですけれども、その課題に対して統合後のあり方を検討するではないんじゃないかと思うんですよね。

そこを前回もおかしいんじゃないですかっていう風に、あの、指摘したんですけれども、あの、もう全く市民の意見をして無視されてますよね。実際佐喜浜でアンケーとを取って、８２パーセント以上が反対かどちらかといえば反対かという現実であって、これで統合に対する賛成が多いっていう風に捉えて統合計画を進められるとしか信じられなくなりますよね。あの、その辺りご回答いただきたいんですけれども。

（山本）

統廃合ついてですね、様々なこうご意見、まあ、課題というのはやはりこうした地域説明会の中から出てくると思います。その意見について、統合中学校、令和 10 年度からのスタートさせるにあたってですね、そういった意見については事前に、まあ統合中学校の在り方を考える検討委員会というものを立ち上げてですね、その中で具体的にどういうことをしていくか。

当然その防災対策っていうのは、やはりとりますよ、とります。ただ、具体的にそうしたらこういう場合にこういうことをするっていうのは、やはり、そういった検討委員会で、皆様のご意見を聞きながら、こう形作っていく、そういう、

（参加者）

いや、なんで統合が先に決まってるんですか。そういうところを考える。じゃあ、場所、どうやって決めるんですか。

（山本）

そしたら、あの、先にこの実施計画案の説明させていただいてもよろしいですかね。それ、あの、私たちが、この結論にいたったという考え方っていうのが出てますので。

（参加者）

はい。

（山本）

≪資料に沿って実施計画案説明≫

（高﨑）

はい。それでは、先程の説明を踏まえた上でですね、質問がある方、あげていただきたいと。

（参加者）

あ、すいません、●●です。

先ほど、その統合に向けた新しい学校のあり方検討委員会をまた、立ち上げて、それはもう統合しますという中での検討委員だと思うんですけれども、あの、話がちょっと、ちょっと戻って、最初の適正規模適正配置検討委員会のメンバー２４名、これ本当に先生とPTA の会長さん、保護者会長さんとかね、一般の、地域の代表っていうのは、ほんと３人ぐらいしか入ってない。その中で、まあ議事録とかを読ましていただいた中では、先ほどからその、やっぱり数字で、こう、何年後には人数がでこれくらいになるでっていう資料があって、どうしても、その、統合せなあかんよねっていうような話を持っていき方も検討されているように、えっと強く感じておりました。

ただ、あの、ちょっと残念だったのは、

地域をなんとか活性化して、市の方の移住者をたくさん呼べるようにという施策は行っている中で、佐喜浜この間から、産業振興に向けての、話し合いの場っていうのはこの会議

でもされる中で、子供をなんとか、そのマイナスの現状を歯止めをかけたいという思いを持ちながら、地域と学校と関わってきている現状の中で、この新たにその統合に向けてのその検討委員会を立ち上げるというよりも、もう一度地域の人と、まああの、先の方にも実際そのアンケートを調査をしたいとか、いろんな懸念があるわけですよ。そういうことも含めて、 ある意味、ちょっともう一度時間をかけて、統合するのか小規模の学校でなんとかこう行けるところまでできるもんなのかとか。その地域との学校の関わりで、やっぱりその地域から学校がなくなってしまうと、もうこの佐喜浜の衰退の域にこう拍車がかかってくるんじゃないかなというような懸念はあるんですね。それはけど、本当に子供をその、ある一定の人数の中で教育するのが正解なのか、あるいは今のように、もう本当に、片手で数えてもらえるような中での教育というのが良いのか、まあ正直、あの、どっちがいいのかっていうのは僕もちょっとわかりませんけれども、そういうことも含めて、検討をしていただきたいなというのはあります。前回のその説明会の時も本当にあの国からのデータを、抜粋をして、市の方が、これは室戸にあてはまるであろうなんていうのを平気でアンケートというか資料に掲載をして、あたかもこれは本当に地域の方の声があったみたいなところでこう出てきたので、ちょっと、まあ、不思議に思うのも多少ありました。なんとかこの学校を残せるのかな、残すためにどういうことができるのかなというような検討もしていただきたい。
それは情報を出していただきたいなというのは、正直あって、賛成か反対かっていうことに、今はその明言ができる感じではないなっていうのは正直ところであるし、まあ学校が無くなってしまうことによって、地域がどうなっていくのかっていうようなものは、一住民として、検討をするところであります。

（山本）

今まであった学校が地域からなくなって、やっぱり地域が寂しくなり、これもう否定ができないと思います。やっぱり、生活力とか、子供たちの声が聞こえたっていうところがもうなくなるっていうのは、やはりそれがあると自分は考えています。ま、そうした中で、こう、例えば統合中学校になった時に、その地域との連携っていうところはどういう形が取れるのかっていうのは、これはもう考えておきます。
そのためにはですね、やはり統合中学校の、まあその教育活動の中で、やはりこう子供たちがこう地域へ入っていくっていう、取り組みっていうのを、やっぱりこう、作っていかないかんと思いますし、これまでやはり皆様方が取り組んでいただいた、その地域学校共同本部とか学校運営協議会についても、やはり統合中学校でも、必要だという風に考えております。
構成については、市内全域で各地域から代表者がそのメンバーに入るというような形にはなると思いますけれども、そういった形で、なんとかですね、その地域の火を消したくないってい思いがあります。この移住政策の移住への取り組みで、この３年度と４年度でやはり、100 人以上の方が移住されているというデータはあります。けれど、やっぱりこう人口減っていくし、子供が減っていくし、そういった中で、本当にこう室戸の子供たちにとって、この学校っていうことをどんな形にしちゃったらいいのか。
先ほど言いましたように、その令和 10 年度に室戸中学校以外の中学校が各学年でも 10 人未満という見込みなんですよね。

そこで、例えば中学校で市外へ、出られる子供さんもやっぱり一定数おりますので、そういった時に、やはりその中学校でこう複式学級というような編成が必要になってくる、そういった学校がですね、本当に室戸の中学生にとって望ましい学校なのか、そこはすごく考えます。やっぱりこう地域に残したいっていう思いはみんなありますけど、やっぱりこういうあの社会でこういう状況になってきゆうなかで、その学校のあり方っていうのも、やはりどっかでもう変わっていくのかなという風には感じております。その変わるタイミングは、
やはりこの新しい中学校を建てて、そこへ後から統合していくんじゃなくて、やはり室戸市内中学校４つが対等の立場で新しい中学校を作っていくと、新しい中学校を変えるっていう形がやはり望ましいという判断をしているところでございます。
ちょっと答えになったかわかりませんが。

（参加者）

その 10 年にも 1 校に統合しますよっていうのは、どの時点で方向性が決まりましたか。

（山本）

まず方向性については、この実施計画が今の段階ですけれども、これが地域説明会において実施計画として、まああの教育委員会とは、まあ市長部局との協議の中で、総合教育会議の場で図って、そこで了承していただければ、方向性については確定します。ただ、行政上の手続きとしたら、この学校については、その室戸市学校設置管理条例という条例があってですね、そこの条例で統合中学としての位置付けがいわゆる議会で承認されると、できない いうことになります。その条例を上げる時期としたら、やはりこう、施設がある程度こう完成間近の時に大体その条例というのを挙げるのが普通なんですよね。もう施設もがっちり決まって、学校施設で面積がこれくらいということが決まった上で、議会に対して統合中学校としてあの規定しますっていう、そこで議会での承認ならないっていうところは、まあその令和９年度までには当然その統合にかかるあの予算、様々な予算、あの議会の方では上がっていきますので、またそういった時にですね、おそらく議会の方でもこの統廃合についての議論というのは、例えば一般質問とかその予算に対しての質疑の中で出てくるという風に考えております。
ただ、この実施計画案が実施計画になった時点で、一定、教育委員会としての方向性は決まります。それが地域説明会が終わって夏から秋にかけて教育委員会とか総合教育会議の方へあげていきます。決まるとしたら、その今年の秋ぐらいまでには、決まる。方向性については。

（参加者）

いやいや、えっと、この６月議会で小椋議員が中学校のことについて質問したとき、教育長答弁が８年完成の予定で、10 年の３月に統合してよーいどんで始めますよっていう答弁をされたんですけど、前回の議会の時は、計画前倒ししてもとにかく室戸中学校だけ先に高台へをあげましょうと、あのことについては また検討していきますっていう答弁で、全会一致で終わった。
それが、この前の６月の議会の時に、教育長の、答弁ではもうちょっと、10 年の３月という答弁が出ない、いつ決まったんだっていうのがあって、議事録見返してもろうたらわかると思うけど。

（百田）
私が答えます。さきほど次長の方から言いましたけども、当初の案では、室戸高校の施設をですね、利用すれば十分にその期間にはできるだろうという判断をしました。ところが体育館やプールを新しく設置しなくてはならないという状況にあります。県の教育委員会の判断では。
そうしましたらやはり校舎・・・？？？？？？？できませんので、今言いましたような体育館もしくは、？？？？をきちっと設置してですね子供たちが、楽しく学校生活をできるような状況にするためにはやはり、？？？？？？？？？？？？？？させていただいております。
ですから、地域、特に室戸中学校の保護者からずいぶん校舎だけ出来たら、行かせてというご意見がございましたが、 やはり、教室だけではなく、子供たちの学習はきちっとできませんので、そういった事情もございまして、室中の保護者の方にもですね、もうちょっとはようできんかというところもございましたが、？？？？？？？？？？？？？？
（参加者 ）
スライドを最初に戻してもらってもいいですか、今の回答された質問を、別の角度からしたいんですけど。お話が難しすぎてよくわからないんですけど。これ１枚目ですか？
（高﨑）
これ１枚目で、実施計画案の方ですね、これ、１枚目です。
（参加者）
そうですね。
はい。ここでわかることは、会議が、４回行われてその１番最後の会議が今から７ヶ月前であるっていうことですよね。
で、その７か月前である、12 月、令和３年 12 月の時点で決まったことが、
（山本）
あの、令和３年です。これ、報告書は、１年７か月前です
（参加者）
１年７カ月前の会議で決まっていたことが、中学校は段階的に１校に統合を行うべきであると、はっきり書かれていますね。
ただ、このあと、去年、１ 年ぐらい前の佐喜浜小学校であった説明会では、これ既定路線なんですか。って質問が多分いっぱい出たと思うんですけど、その時の説明では、ちょっと言葉を覚えてたんですけども、決まってませんっていう風にとしか解釈できない説明をずっとされてたんです。
え。決まってないですか。って逆に私は質問したくらいなんです。あの新聞報道では決まってるって出てたのに、決まってないんですねって。
その後も親として色々聞いたのは、なんか白紙に戻ったらしい。白紙っていう言葉まで出たりもしましたけど。ま、それはあの人々の噂なのでわからないですけども。そういう状態で佐喜浜の親はおるわけです。
ああいう説明会をオフィシャルに設けていただいて、きちんと決まってるんですか。って聞いても、その場で決まってますっていう説明なかったのに、この今の出てきてる資料が決まってるわけでしょ。

だから、どうしてあの時に決まってるっていう一言を言わずにはぐらかして、あの時のいろんな質問を受け付けて、その質問だけを持って帰ってですね。なにに生かされたのかなという風に、それは何のために使われたんですか。

（参加者）
それは課長が変わっちゅうきわからな。
（山本）
昨年の基本計画の段階では、一方、こう統合していくという方向性は示してますけれども、そのやはり地域の方、保護者の方の意見を聞いた上で、まだその検討していくっていうような段階だったと思います。
で、今回はその基本計画の後に実施計画という段階ですので、今回は全部の方向性を決めているその違いがあると思うんですけど。
（参加者）
分かりません。
（山本）
わかりませんか。
（参加者）
要は、あの、先ほど髙田さんが決まってるっておっしゃったのも、多分すごく違いがあって、行政の方として、その決まるっていうのが議会を通しても、なんか効率的に持っていなくて、策定されるみたいな、本当にもう覆らない状態が決まるだとおもうんですけど、私たちにとって決まるっていうのは、それに向けて動き出すって、市の方がもう固められた時点だけです。 それに向けて頑張られてるわけでしょ。じゃあ、それがいつなのかっていうことです。
（山本）
方向性が確定するのは、この実施計画を策定した段階で、方向性は確定をいたします。後のその、行政手続きを抜きにしてですね。それが、今年のこの秋ぐらいになります。今後、地域の説明会を各地域で開いて、その後で、そういったご意見を踏まえた上で、この実施計画を作ります。それを今度は教育委員会と、あの市長部局で、総合教育会議というところに、諮ってですね、そこで了承していただいたら、この実施計画っていうのが決まりますので、まず、方向性は、その段階で確定するということになります。
（参加者）
じゃあ、まだ、決まってないということですか。
（山本）
そうです。今、案として出してますが、教育委員会としてはもう、この方向で進めることを考えております。
（参加者）
それ、方向性きまってるってことですよね？
（山本）
そう捉えてもらって構いません。
（参加者）

いや、すみません、方向性をきめるじゃなくて、
この、10 年度の、各中学校の学年別生徒数を見たら、室戸中学校以外は 1 桁なんですけど、その 1 桁に佐喜浜、吉良川、羽根中の保護者は、あの、中学校を残したほうがいいっていう人いるんですかね。
この数字だけ見たら、確かに統合して、新たな統合中学校を開校するのが望ましいとおっしゃりましたけど、その、実際住んでいる佐喜浜、吉良川、羽根の保護者や子供たちがそのように思っていて、地域住民の声を一番にきいて、先に室戸中学校を高台移転して、新しい中学校を先に作って、後から、じゃあ一緒の中学校行きたいなってゆってからでもいいと思うんです。４つの、４校を統合をスタートするのではなくって。

（山本）

各地域でやはり賛否両論なので、やはりこう、反対が強い地域っていうのがあるのは事実でございます。その最後に言われました、先に室戸中学校を移転しようと、その後から、統合したらいいんじゃないか、基本、この先ほど言いましたその検討委員会の段階から、やはりもう最終的にはこう統合をやむを得ないっていうのはやはりあったのかなと。
ただその統合をするタイミングですけど、昨年度の基本計画の段階では、やっと令和 7 年度に室中を移転して、令和 8 年度から統合するという、去年、去年の基本計画の段階でそうだったんですけども、やはり、その施設整備のスケジュールは 2 年、後になるっていうところで、その令和 10 年に先ほど言いましたように、その市内学校の生徒数が、こういう状況になります。あと、やはり南海トラフ地震からの、その生徒とか教職員の命を守るためには、やはり一定もう早い段階で移転をする、統合するっていうことが必要だというところがあります。大きくやはり 2 年、スケジュールは後ろ倒しになったというところが 1 点。
その 10 年度にこう各市内の各中学校が、生徒数の減少というのは先ほど示したような状況があるっていうところと。
あと、そのやはり 4 つの中学校が対等なあの形で、こう統合していくと、新しい統合中学校をこうスタートさせるっていう形もやはりちょっとこう、判断の 1 つにはなってきました。

（参加者）

対等にはには思えません。佐喜浜は一番通学とかの分でも室戸中学校とか中心地に近いところの方が優位であってすごく便利で、羽根、吉良川よりも、大雨なんて降ったら道路なんてじき通れんなるじゃないですか、夫婦岩の道が学校にいけない、先生もこれんなるし、なのでもうちょっとあがきたい。

（山本）

どうしてもこう、地域的な差なんかは、やっぱり学校までの距離とかっていうのはどうしても、そこはどうしても出てくるかなとは思いますけれども。この室戸中学校に統合するという形ではなくて４つに中学校が新たに統合中学校として統合するという形を考えてます。

（参加者）

検討委員さんの出身地の構成としては、委員さんの地元って佐喜浜の方もいるんですか？吉良川とか羽根とか室戸とか、その意見は配慮されてるんでしょうか。

（山本）
検討委員会の委員のその構成としたらですね。
各地域のやはり pta の会長さんには入っていただいているところでございます。あとは、その保育所の保護者会長も地域の保護者の方に入っていただいているということで、それで、地域的には各地域にまんべんなく構成メンバーとしては入っていただいております。
（参加者）
何人ですか？
（山本）
24 人です。
（参加者）
佐喜浜何人とか、わかる範囲でかまわないんですけど。
（参加者）
学校ありかた検討委員会も同じメンバーですか？
（山本）
いや、この構成メンバーについては、まだ現在、具体的には決めておりません。やはり各地域から、入っていただくという形を考えております。
（参加者）
それは、実施計画の策定があって、この学校のあり方検討委員会を立ち上げるということ
（山本）
そうです。当然、その方向性を確定したあとやないと、このあり方検討委員会は立ち上げれませんので。
（参加者）
お願いですけど、この今日を皮切りに室戸行って、元へいって吉良川行って羽根行って５カ所、ここで出た意見とかそういうものが、共有できたらしたほうが良いと思う。
（山本）
それは、共有します。
（参加者）
そういう、いろんな意見があります。佐喜浜から羽根までの地域の方、保護者の方と、その意見を共有した中で、やっぱその、学校のありかた検討委員会もそうですけど、そこへ行くまでの計画策定うんぬんを、しっかり順番を経ながらやっていただきたいなと。
ただ、その冒頭ね、決定ではない意見をきいて検討しますというか、決めていきます。
で方向性が決まっちゅうという感じなので
（山本）
そこはもうはっきり、教委員会としての方向性っていうのは、決めているところでございます。その決めている中で、こう地域で出された意見っていうのを、どういう形でこう、対応していくかっていうところは考えていきますので。
（参加者）
●●です。えっと、中学生と小学生２人と保育園の子供がおりますけど、私の認識では、室戸中学校と室戸のまちなかの人たちが高台に、子供たちを移転させたいっていう意見がはじめに出て、それから、それったらもう、その他の佐喜浜、羽根、吉良川の人口も少な

くなっちゅうきどうせなら、もう統合してしまおうという考えから始まったのかなと勝手に思っちゅうがですけど このアンケートとかも一気にとって、一気に結果を出すんじゃなくて、地域ごとの、地域ごとに分けてですね、多分、それぞれ地域で多分状況というか、中身が違うとおもう、私だって室戸の街中におったら、高台移転統合は賛成やと思うんですよね、佐喜浜は佐喜浜で特有なこともあるし、実際、さっきおっしゃられてましたけど、その台風じゃなくても、通れんなってもう陸の孤島になるんですよね、佐喜浜は。そういうその安全面、震災の時もそうだし、その日頃からの災害、台風じゃなくてもそういう心配してるところをもっともっとどうしていくかっていうことを考えてくれてから、統合の話をしてもらわんと、統合を決めてからゆくゆくは考えていきます、じゃあ、納得できんというか、安全の確保ですよね、子供たちはどうするか。でも送り迎えとかも中学校に入ったら部活が増えると思うんです、統合した場合にはそしたら、終わる時間もまちまちやろうし、そこらへんも送り迎えを保護者がしていかんといかんものなのか、ちゃんとそこまでスクールバスを使って、部活動をそれぞれしてくれるのかもわからんし、なんか地域で、佐喜浜すごい、 私、高知市内からこっちへきちゅうがですけど、その地域ですごい、子供たちとその保育園、小学校、中学校が関わるのってすごいえい町だなと思って喜んぢょったところなんですけど、あと現場の教職員とか保育の先生たちにアンケートをとって、その現場の方の意見もきっちり、ちゃんと上がってくるのかっていうのも気になるし。あと、先ほどおっしゃってた、条例を変えんと実行できん、おっしゃってたでしょ？そこが意味が分からなくて、大体、完成する間近に条例を変えてせんと、やりたいことが通らんってゆうががおかしいがじゃないかなって、条例まず変えて、建てますよっていうがやったらわかるけど、ちがいます？ちょっとわからんですけど。

（山本）

そこはちょっと違います。

（参加者）

決まっちゅうか決まってないかも意味が分からんし、いつ決まったかもわからんし、小学校も決まっちゅうもんやらどうやらわからんし、全然分からん状態です。

（山本）

最後の小学校については、この実施計画の中では、統廃合を行わない、元小以外については行わないということで明記をしております。

（参加者）

行わないんですね？

（山本）

行わない。当面、表明した当面の間どうしても、この５年間のうちで、いろんな状況が変わってきた時には、検討の課題にはしますけれども現時点で、小学校についてはこの５年間は行わないということで、ご理解いただけたらという風に思います。元小以外についてです。

課題をね、やっぱりいっぱい出てくるがですよね、統合中学にした場合って、いろんなこう、課題っていうのが出てくるんで、ただそれを、その課題を全部こうクリアしてから、統合決めたらいいんじゃないかっていうお話ですよね。

（参加者）

いや、ちがいます。安全面を佐喜浜が佐喜浜で地域ごとに問題があると思うんですよね。そのアンケート自体、その、言うたら、地域ごとに分けてないのもおかしい話やと思うし、地域ごとにあるとおもうんですよ、事情が、佐喜浜は本当に孤立するんでそういうなんてゆうんですか、安全面をかっちり話し合いをした上で統合はどうですかって言ってくれるんやったらわかるがですけど、まだ。これが、統合は決まっちゅうけんど、その安全面については、これから話し合っていきましょうってそういう軽い気持ちじゃあ心配です。

（山本）

決して、軽い気持ちで、自分の考えるだけではないんですけれども。

（参加者）

すいません、課長とか教育長、佐喜浜から室戸までの道でどこが災害の時に通れなくなるかご存知ですか？どこが実際通れなくなっているか。

（山本）

直近では、夫婦岩の手前が浸水して、通れなく、

（参加者）

じゃあその時、どうします？自分のお子さんが学校に取り残されました。迎えに行けませんで。これ、たった１日の話じゃないですよ、どうします？心配じゃないですか？

（山本）

その場合はね。例えば地震なんかもそうですけど、その場合はもう学校が責任を持ってお子さんをお預かりします。

（参加者）

いやいやいや、佐喜浜だったら迎えに行けるんですよ。
子も親と一緒に過ごせるんですよ。これ、どう思います。ご自分が親としてどう思いますか。あの、今の課長の立場ではなくて、これ前回の時も、教育長も、今ここにいるメンバーに教育長しか前回出席された方がいらっしゃらないのに、教育長が答えずに、今までいなかった課長が矢面に立つことがまずおかしいと思うんですけれども、あの、申し訳ないです。課長には本当に申し訳ないけど、だけど、実際に親として、それで本当に賛成できると思います？ 思いますか？いやいや、本当に立場として、我々、親ですよ？
それに対して今後決めていきますで、これ納得して、はい統合どうぞどうぞって言うと思います？おかしくないですか？順序として。
いや、何か他にどうしても統合したい事情が市としてあるんですか？教育費削減したいですとか。

（山本）

いや、お金の面でっていうのは考えてないです。

（参加者）

え、じゃあ、親としてどう思いますか？

（山本）

やはり子供をすぐ迎えに行けないというところはやはり心配ではあると思うんですけども、やはりもう統合中学校になったら、やっぱりそういう状況はやっぱり出てくると思うんです。

（参加者）

統合中学校になるっていうのが前提じゃなくていいと思うんですよね、じゃあ
前回ですね、最後の質問で、教育長はご存じだと思うんですけれども、佐喜浜で高台に学校を移転させた場合、小中一貫校をした場合、室戸中学校を統合した場合、吉良川を同じようにした場合。全部の予算を出してくださいっていうお願いをしたんです。 試算を出してください。その上で、どれを取るべきなのかを市民に判断させるべきだ。で、そういった情報一切、一切来ない。どうして質問にしたが、何のために会議やってるんですか。っていうのを、さっきの彼女の質問のように、みんなそれを疑問に思ってるんです。なんの為に質問して、答えないのに何のための会議なんですか？

（山本）

その経費の試算を出してくれということですかね。
それはあれですか、その経費が安かったらそっちの方っていうようなことですか。

（参加者）

違います。違います。

（山本）

どういう意味合いのことですか。

（参加者）

佐喜浜で受け入れられる経費あればですよ、高台に移転させた方がいいですよね。佐喜浜個別に、高台に移転して子供たちの安全が災害時にも我々、

（山本）

その統合を考えた要因の１つに、その学校規模の話をしましたよね。そこがやっぱり大きいところがあるんですね。

（参加者）

問わせてください。じゃあ、小規模で、より充実した教育を図る方法はないんですか。

（山本）

いや、今でも小規模校で、やっぱり頑張っておられる学校っていうのはほとんどだと思います。多分、地域の方とも連携してやっているので、やっぱりそこは小規模校の良さでもあると思うんですよね。けど、その上で、やはりこの児童数が減少していく中で、学校のこの規模がだんだん小さくなってくる中で、やはり私たちが判断したのは、やっぱり一定規模の学校で、一定のバランスの取れた教職員の配置の中で子供たちに教育を受けてもらいたい、そこがあるんです。

（参加者）

そこが、まったくわからないんですけど、あの、人数の問題ですか。
小規模でより充実した教育をやっていこう、複式学級を取ろう。例えばプランであったり、そういう形態が今世の中に色々出てきてるんですよね。小規模でより特色のある教育をして、それを目指して移住者が増えている地域、 実際にあります。その中で、そういったものの傾向が全く我々に見えない中で、本当に検討されてるんですか。統合ありきで検討してるんじゃないんですかっていうところが、親として不安があります。

（山本）

令和２年度からの、この検討委員会を立ち上げてからの経緯を踏まえた中で、やはり一定、この室戸市の中学校についてはもう統合が必要な時期だという風にそこは判断してます。

（参加者）
会議の資料全部見てますし、議会の議事録も全部読ませていただいてるんですけど、一切そういった傾向についての話、一切でてこないんです。それを市民に開示しないだけなのか、実際に検討されてないのか、それが全く見えない。その中で、なんでいきなり方向性が決まってるんですかっていうのが皆さんの、しかも、方向性が決まってることすら濁すところは、そこに何の意図があるんですかっていうのが我々の意見です。
（山本）
そこは濁してないです、 今回の実施計画ではやはり
（参加者）
先ほどおしゃってましたよね
（山本）
すいません、それは多分私のちょっと言い方が悪かったと思います。もう委員会として、統合中学校、令和４年度がスタートする、
（参加者）
本当に課長には申し訳ないんですけど、教育長にもお答えいただきたい、全体の時に、我々、たくさん質問したんですよ。で、宿題として持って帰りますっていう、その６つの、６パターンぐらい出してくださいってゆったら宿題として持って帰ります、議事録も必ず委員会のホームページで開示します。何も、何も果たされてないんですよね。おかしくないですか。
いや、課長は悪くないです。課長は悪くないです、全然。なんかちょっと市として市民をなめてるなと正直思うんですけど、我々そんなに、あの、たやすくないです。
（山本）
私の方が答えてかまいませんかね。まず、最初の説明の中でも、いいましたが、その、昨年度の、地域説明会を開いて、そのあとのやはり約束したことについて、こう、返せないということは、これはもう大いに反省すべきだと思います。
今後についてはですね、お約束したことについては、やはり、必ず守っていきますので、ご理解をいただけたらなという風に思います。
（参加者）
小規模校のメリットを真面目に考えませんか。
（山本）
いや、小規模校の良さはわかってますよ。
（参加者）
小学校と中学校、佐喜浜だけは向こうに移転せんと、統合っていう形にはいかんがですか、小中一貫校みたいに
（山本）
いや、小中一貫校になっても、やはり中学生の生徒数っていうのはやはり変わらない。
学校自体はこう、あの数は増えるかもしれないんですけど、やはり私たちが今考えるのは、やはりこの一定規模のあの教育環境、ここをやはり室戸の子供たち、室戸の中学生にやはりこう与えてやらんといけない。
（参加者）

数で教育環境を、

（山本）

いや、数はやっぱりその学校の環境に影響してくるがですよね、やっぱり教職員が減るとかですね、複式学級になったらですね、 1 学級減って、そこで教員が 3 人いるわけですよ。

（参加者）1:30:32

室戸中学校にしても、教員１人に対する生徒数でいったら別にそこは、大差ない、むしろ多いくらい。

室戸中学校に統合して、大人数の、多いんでしたっけ、先生がいるのと３人減ったとしても、こっちで少人数っていう、先生の目の届き方でいったらですよ、それで行くと、こっちの方が先生の目が届くんじゃないですか。

（山本）

我々、どうしても、その一定規模で、生徒数も一定の集団がある教職についてもやっぱり一定の集団がある、そういった関係っていうのがやはり、望ましいと考えております。●●さんでしたかね、あの、どうなんですかね。例えばその佐喜浜で、その中学生がこう 1 人でもいたらやはり残しておくというようなお考えなんですかね。

（参加者）

その子が望むのであれば

（山本）

それはその子にとってやはりいいというような、

（参加者）

別に人数は関係ないですね。

（山本）

人数は関係ないですか、あの、ちょっと私もこの４月に来てからちょっとこの問題に関わってきてですね、色々こう考えゆうがですけれども、本当にね、こうメリットとデメリットっていうのはやはりあるんですよね。小規模校やきいかんということはないと思うんですよ。けれどやはりこう、やっぱりこう一定規模の集団の中でこう中学生が中学生活を送るっていうのも私はやっぱり大事だと思います。

だから、やはりそういったあの学校の環境を室戸の中学生に与えた、まあ与えたというたらちょっとあれですけれど、そういう環境を作ってやって、その中でやっぱりいろんな課題が出てくると思う。

そこについては、やはりあの、どういった対応を取れるかっていうのをやっぱりそれは継続して考えていかないかんと思うんです。

（参加者）

前回課長いてらっしゃたかわからないんですけども、一つの提案として、各中学校が特色のある教育をして生徒自身が選べる、通う中学校を選べるっていう選択肢を取れば、各中学校の人数はもしかしたら平準化される可能性はあるんじゃないか。各中学校の人数が増える可能性がある。

それは先生の努力次第に関して、先生たちの切磋琢磨にも繋がるんじゃないでしょうかっていうお話もさせて頂いたんですけど。それに対しても全然答えてなかったんですけど。

（山本）
それはどうですか。やっぱり現実的にその選択性にして平準化されますか。
（参加者）
佐喜浜よりも面白い教育を例えば吉良川中学校がしてるとしたら吉良川に通わせますよ。だし、それは選んでっていう形に、小学校はなってますよね。そういう形で、その競争は中学校も競争する環境を作ったらいいじゃないですか。そしたら全体のレベルの底上げにもなるし、生徒数も平準化される。そういう検討はなされないんですか。あ、これはただの１案なんです。これについて意見を求めてるわけじゃなくて、そういう選択肢もあるんじゃないですかっていう
（山本）
その選択性っていうのは、今回の中では検討しておりません。やはり統合した上で一定規模の学校を作るっていうところと、あと言われる、この小規模校の良さととかですねそういったところもやっぱり踏まえつつ、やはりもうどっち、どちらかをこう、やっぱり選ぶ、判断をせないかなんがですよね。
（参加者）
数のメリットだけですか？
（山本）
数が減ることによってですね、やはりその学校の環境っていうのも、やはり整えられなくなるっていうところもありますし、統合することによって、やっぱメリットっていうのも出てくると思います。やはりそれをやっぱりこう比較して、やっぱり判断した上での、あの形ということになります。
（参加者）
なんか、ちゃんと議論しましょうよ、地域住民と、今後、
（山本）
それはどう、どういった形ですかね。
（参加者）
会議しましょうよ、みんなで。本当にこのメリットデメリットはなんなのかとか、そんな全国版、文科省が出してますみたいな、メリット、デメリットみたいな話ではなくて。
（山本）
全国版やないやないですか。今回、室戸市の 10 年間度の例えばその状況とかを踏まえた上でこういうあの課題が出るっていう。
（参加者）
いや、それ人数だけじゃないですか
（山本）
決してその国の基準通りをそんなに持ってきてっていう話じゃないんですよね、今回は。
（参加者）
人数だけですよね。
数の話じゃないと思うんですよね。
（山本）
いや、やっぱりその規模っていうのは、やはり私たちは、あの、考える要件

（参加者）
安全よりもですか？
（山本）
いやいや、それは安全性もやっぱり考えていきますよ。で、どういった形でを取れるかっていうところはこれから検討していかないかんですけど、なんかそこは考えていきます。全然安全面を無視してっていうことはない。
（参加者）
お茶とか、飲み物のんでください。
あの、感動してます。
えっと、適正規模とか、すごい望ましいっていう、やくした形容詞が今回すごいバンと出てきて、むしろそれしかないなって思ったんです。うん。
望ましいっていうのは、やっぱり人によって違いますよね。●●さんが言ってる望ましさもあるし、教育委員会が考えてる望ましさもあるんだと思うんですけど、まあ全国規模のあの基準の 20 人とかって言われても、私たち、病院だって鉄道だってスーパーだって、何も望ましい数の中では生活してないわけです。で、学校だけは、その全国基準のものを持ってこられて、これだけが根拠で望ましいものですよっていうのはちょっとおかしいかなと思います。で、もう 1 つは、アンケートの扱いなんですけど、 やっぱり室戸の人にとって、室戸の定義って、その、室津とか浮津と中心地のことです。そこのお母さんお父さんにとってみれば、学校の規模が大きくなるし、佐喜浜とか吉良川とか羽根とかからフレッシュな子がきてええやんなっていう、もう全て賛成やと思うんですよ、高台にもうつるし（1：37：29？？？？でも佐喜浜、それから吉良川、羽根だけ、その 3 町をまとめてでもいいですけど、賛成と反対で、それぞれの理由をこう切り離して考えてほしいんです。で、それは、その、私たちはなんでもかんでも反対って言ってるわけじゃなくて、学校がなくなる寂しさとか、歴史的にすごいことしようとしてる責任があるわけですよね、今まで、歴史を考えたときに、でもそれよりももっといい選択だと、信じて親が室戸に統合した中学校を、佐喜浜の親も、室戸も、吉良川、羽根の親、室戸は関係ないですね、別だと思います私は。
なので、吉良川、羽根、佐喜浜の親がみんなそう思えるくらい、情熱を持ってこの大きな一大プロジェクトを進めるつもりがおありなのかなって。で、今のところ思ったのは、 この説明が白紙になったりなんてのか、こう、ちょっとごまかしの部分があってね。はっきりと、先ほども、そうじゃないの、進めますっていうような形になって、ご回答を始めてもらったんですけども、今までのやり方で言うと、本当にも、はぐらかされてばっかりで、はっきり言って、しかも、その市のどなたが勧められてるかもよくわからなくて。こんなに大きい仕事なのに、責任を持ってる人って誰なんだろう。すごく思うんです。室戸市に、1 つの市に中学校が 1 つしかないっていう市町村はありますか。ほかに日本で
そういうこととか、一番、どなたが知見をもたれているんですか、いろいろ調べて。
（百田）
中学校は今のところ、 1 校だけは、土佐清水市、それから土佐市なんかもそうですね。
それから、この統廃合については最終的にはですね、設置者は市長です、市長です、ただ、私のほうは、その検討委員会とか、それぞれ、教育委員会というのは、4 名の教育委員さ

んがおられます。その４名の教育委員さんのご意見聞きながらですね、こういった方法を出してることです。ですから、この教育委員会としての、実施の案を作っておる責任は私どもにあります。最終的には、先ほどもいいましたたように、学校の設置者というのは、責任は市長です。やはり今の、先ほど言っておりますように、あの教育委員会としての案を持ってですね、市長の、教育総合会議のなかでですね、確定をするという傾向になると思います。それぞれの準備の段階で予算等もですね、議会の方でご承認をしていただくのです。
それもですね、予算あげどうかも、これは、もう、市長の、市長部局のですね、判断ですから、そこは共有しながら、詰めていってみようかと思います。

（参加者）

そしたら、設置者が、市長になるのは、それが行政の手続きと、そうになりますよね。でも、市長って、変わるじゃないですか。変わるかもしれないじゃないですか。
あの、それって４年に１回、必ず起こることですよね。なので、私が聞いてるのは、その、この統廃合に関する責任者、１番、誰が責任を持って、この統廃合に着手し、その間で本当の廃合、統廃合を見て、その後見守って、これなら大丈夫っていう風に見てくれる責任者がいるのかっていうことです。

（百田）

それでも、あの教育委員及び、教育長の方にあったと思います。それは、それぞれ任期がございますから、先ほどの市長と同じようなことでございますが、あの教育委員さんが、それぞれの、非常に広い見識を持たれて、ご意見をいただいております。私共は、最終的には今いいました、私も、１年半で、今の任期が切れますけれども、変わったとしてもですね、変わったとしても、その、今の方針っていうのは引き継がれるわけですから、そこのところはですね、教育長が変わったからからどうこうということではございません。

（参加者）

わかりました。じゃあ、任期がある方だけで構成されていくということですよね。それで、まあ、私は、それはすごく難しいことだと思うんです。これから先、でも、じゃあ室戸市だけの問題かって言うとそうじゃなくて、日本中の室戸に準じるような人口規模の人がみんな悩んでいることだから、まあ、要は前例になると思うんですよ。たくさんの、いいモデルがないかと思って、先駆者的な役割も果たさないといけないと思うんですね。本当に大変、その市の中でも、佐喜浜だけでもこんなに意見があの紛糾している状態でまとめられてないのに、そんな大きい仕事を、本当にできるのかなって。なんか保護者の方がその心配とか
子供の心配とか生育がとかっておっしゃってるけど、私からしたら、それを、強行されるプロジェクトの責任者の方って誰なのって。本当にその任せれる、任せるつもりはないんですけども、信頼関係を築いてやっていけるのかって思うんです。
今のところそこに至ってないです。なぜなら、私たちの意見、全然アンケートにも何も反映されてないし、佐喜浜だけのどれだけの親が反対しているかっていう数値もお持ちではないですよね。私たちがどんなことに心配を持ってるかっていうことに対しても、あまり具体的な返答はなさそうな感じやし、これから考えますっていう風な。
最後に１点、まさに望ましいっていうことであれば、１つ疑問に思ったのは、今年で１番

望ましい 形と思われるのじゃあ、室小と室中になるわけですよね。規模で言えば。そこで行われている教育が、その皆さんの考えている理想の形ということですか。
それで、佐喜浜とか羽根とか吉良川の実体と比べてですよ、まあそれはね、メリットと言えばいいと思うんですけど、その室小、室中の状態がすごくいい状態ですよ、佐喜浜の子も来てください、羽根の子も来てくださいっていう状態なんでしょうか。

（山本）

規模で言ったら、その室戸小、室中というところはあるんですけれども、何回も言いますけど、小規模校がいかんということではないんですよ規模的には小さい、例えばここの、佐喜浜にしても、やはりこう、地域の方との連携とかですね、こういった活発なご意見が出るっていうのは、やはりこう、日頃から、やはりいい学校運営になっているのかなっていうのは、感じてます。で、ただ、やはりこの、あまりにもこの生徒数が減ってくる中では、やっぱりこの学校のありかたっていうのも、やっぱりどっかでもう変わらざるを得んのかなっていうのは思うんですね。やはりそのタイミングっていうのは、やはりこの令和10年度のこの統合するというのはタイミングでもあるのかなという風に考えます。

（参加者）

そのタイミングとは考えられません。後からでもいいと思います。

（参加者）

例えば佐喜浜を小規模中学校の一つとして残して、１つせめて２つ、例えばいじめが起きた場合、これ１つすごく大きな問題だと思うんです。実際起きますよね。災害よりもっともっと起きてますよ。そうでしょ。必ず起きるって思った方がいいぐらいのことですよね。その時に行き場所がない子供たちをどうするかとか考えたら、１つは残すっていう、

（山本）

ちょっと今回私も、ちょっと去年の説明会の意見を読む中で、この選択肢がこうなくなるっていうところについて、やっぱりすごい難しい問題だなっていうところがあるがですよね。１つにはやっぱり望ましい規模の学校っていうのは必要だし、やっぱり統合がやっぱり必要かなと、ただそこで例えばその統合中学校に通えなくなった子供の行き場所をどうするか
ただ、そうした、こう課題というか、まあ不登校とかになった子供たちの選択肢の１つとして、こう地域にあの学校を残すっていうのは、これは逆に難しい。そこだけを？？？1：47：49にしてっていうのは。

（参加者）

あ、課長、佐喜浜はね、昔からシェルターの役割を果たしてきた学校なんですよ？？？？？。関西の方からも来たりしている。

（山本）

地域に残っちゅうというのは、そこの中学校に、地域の子供が通うということなんです。その、例えば不登校じゃない子供もそこに入るっていう、

（参加者）

選択制にするっていう室戸に行きたい、佐喜浜に行きたい、

（山本）

まだね、その、ほんとにこう、地域に子供がおって、ある程度規模を保っちゅうがやった

らかまんけんど、やはり佐喜浜について 10 年度を見ても、各学年１０未満なんです。その先についてはちょっとわからないですけど、やっぱり、減少するっていう見込みになっちゅうがですよね。

（参加者）
課長は佐喜浜中学校がやってきた、色んな行事どんなものがあるかご存知ですか。地域と一緒にやってきた行事、
（山本）
防災対策課長の時には、その防災訓練とかに参加させてもらって、やっぱりこう、地域と一緒になってやっていこうところは、自分なりには感じてます。やっぱりそういう地域との連携っていう部分は、やっぱりこう地域に学校があるきできるというところも、承知はしちゅうがですよ、けれど統合中学校にする、その一つの理由としてその各学校の規模ですね、そこの環境は、やっぱり室戸の中学生だけやなしに、羽根とか吉良川とか佐喜浜の子供もやっぱり作っちゃらなかないかん。
（参加者）
なんで、小規模校の良さを分かっていらっしゃるのに、安易に数の議論にもってっちゃうんですか。だから、そこの間の過程が我々には全く見えなくて、全く納得感がないんですけど、誰も府に落ちない。なんで、そこの間の議論を我々、たった、いいですか、たった 15 人ですよ。たった 15 人が、今であっても 20 人、世帯数でいったら十何人、わかんないけど、まあ保育、小学校合わせても 29 から 25 世帯ぐらいですよ。その人らとなんでもっと話をしないんですか。なんで？？？1：50：27 に決まっているんですか。なんで情報も開示されないんですか。これ、すっごい大事な議論ですよ。
（参加者）
高知でね、追手前小学校と新堀小学校が統合するっていう話のとき、一番上の子が追手前に通ってた時に、そしたら、何十年も何十年も話し合われてきたことながですよ、だってこれ２回目でしょ、住民説明会、私は前回来れてないですけど、もっとその地域の人に寄り添って考えたうえで話をしてくれんと、それでほんで決めて、こういう方向に行くしかないとかっていうんやったら、わかるけんど、もう決まったからそっちの方向でいってくださいっていう、あ、そうですかって話にはならんと思いますよ。
（参加者）
だって、全然地域の現状がわかってないじゃないですか。課長、たまたま防災にいたから情報持っていらっしゃる、だけど学校がどういう取り組みを地域としているとか、それでどういう関係性ができているのかとかどういう教育効果があったかとか。
それが、じゃあ室戸と比較した時に、これ単純にどっちがいいかって言えないと思いますよ。だけど、じゃあ室戸の方がより優れていると言えるのか。統合する価値があるのか。
（山本）
いや、いや、優れちゅうということは、いえないです。それはない。やっぱり各学校がそれぞれ良さを出してやりゆうというところは承知しちゅうがですけども、
（参加者）
さっきお渡しした、佐喜浜の保護者のアンケートの中にも出てくるんですけど、これ室戸

に通学させるんだったら片道 30 分はかかるんですね。1 日、往復 1 時間ですよね。その 1 時間が、じゃあ 200 日登校するとして、200 時間で、そこを室戸の、子供たちが学校に通う時間をさっぴいたとして、佐喜浜の子供たちが通学のために今後 100 時間ぐらい割くわけです。 1 年間で 100 時間以上割くわけです。その通学で無駄になる 100 時間以上のメリットが室戸中学校にありますか、それを提供できますかっていうぐらい、1 時間ですよ、課長、1 時間かけて、1 時間かけて通学します？。

（山本）

それ、やっぱりこう、統合中学校になったら、やっぱり今まであった形が変わるので、やっぱりどうしてもそういうところはもう出てくるがはしかたないがですよ。その上で、室戸の中学生にとってより良い統合中学校を作っていこうという考えなんですよ。

（参加者）

だから、ちゃんと議論しましょうよ

（参加者）

私、教育委員です。去年、教育委員になる前にこの会に出席して、かなり地域というか保護者さんの声、そん時はちょうどね、コロナが流行ってて、ほとんどの保護者さん、参加できなかったんですよ。？？？？？1:53:29
お話になって、それからいろんなものを、提案されて、そして私も教育委員になって、地域で来ている保護者さん、そういう方のお話をこう伺いながら、教育委員会の会の中、それからあの総合教育委会議、その中では、佐喜浜は室戸市の中でも、ほんとにあの安全性、通うには大変だから、こういうようなことを事前に、避難所も全然ないですよね、こっちにね、トンネルもあんな状態だから、そういうことを事前に、やっぱりこう考えて、考えて、並行しながら、進めんとなかなか難しいですっていうこともお話させていただいてます。
議事録もそういう会議も全部開示されてると思うので、まあ読んでいただいたらわかります。やっぱり、羽根、吉良川、佐喜浜は違うんですよね。なんで違うかって言ったら、選択肢が 1 つになった場合、羽根だったら安芸の方にに行ける、あるいは中芸の方に行ける、でも佐喜浜はどこにいくかな、私はやっぱり室戸市に中学校 1 校はどうかなってことを、ずっと、お話しさせていただいています。なぜかゆうたら、選択する、子供が、選択できると、子供にとっての学校ってなんだ。てゆう風に思ったんですね。最近思うことは、今、地元に学校があったら、ちょっと学校に行きにくい子も、自分で歩いていける、あるいは、自転車でもいける、スクールバスになったら、その子たちはどうなるかな。スクールバスは来てくれるかなぁ、とか、そういう子供のこと考えたときに、いっぱい課題が出てくる。だからもう、いつの間にか、自分の感覚の中でも、去年の 7 月ぐらいに教育総合会議で反対か賛成か聞かれて、私は反対といいました。反対の理由を言いました。佐喜浜のこと地理的なこと、もろもろそして小規模で、やってることでも、充実している、歴史がありますよね。でも、こういう風なことで、教育委員会が進めるとなってなった時に、やっぱり、いろんな条件をクリアしていかんと、安心して、佐喜浜から通うのは、どうかなっていうことを、ずっと、こう、思ってたんです。だから、ほんとに、もう、規模で、適正規模ってことはわかります。子供の教育条件、それもわかります。でも、 何か、そこで、こう数だけじゃなくて、じゃ、こうすること決まってから、じゃあ、こう決めますっていうなか、

ちょっと親御さんどうかな、安心できるかなっていう風には、やっぱりこう、自分も言っております、市長には、そういう、教育総会会議の時には、話が自分から言わせていただいていますが、賛成、反対ってゆうのも、まず地元のこれからの子供たち、それから地域で、今の保護者さんの質問に関して聞くじゃないような 何かご返答があったかなっていう風に考えます。難しいですけど。

（山本）

ちょっと数だでけはない答えにしたつもりなんですけどね。その、やっぱりその一定規模の学校ではこういう、子供にとっては、えい環境もあるっていうところは、説明させてもろうちゅうがですけれど。

（参加者）

でも一定環境、大人が思う環境がいい学校が来てますよね佐喜浜には、まあ、だから、大人が思ういい環境と、当事者の子供が考えるいい学校と同じなんですかね

（山本）

こういう学校こういった規模とか、こういったところは、やっぱりその時に関わっちゅうをやっぱり大人が決めちゃう責任はあるのかなとは思うんですけど、やっぱりその子供らの考えっていうのはやっぱりなかなかこう、将来的なこととかっていうところはいかんと思うんで、やっぱりここはもう自分らやっぱり今ここに関わっちゅう大人の責任でやっぱり決めないかんと思ってます

（参加者）

だとしたら、親の責任でちゃんと議論をしたいです。

（山本）

●●さんが言われるのは、こうした意見交換会をやりたいとうことですよね。

（参加者）

そうですね、きちんとした会議として何が統廃合としたらこうである、小希望校として残すならこうである？？？？？を一緒に考えたい。その上で、納得した上でこの会議を進めるのであれば賛成です。すいません、一ついいですか。

室戸高校すごくいい例なんですよ。室戸高校すごく生徒数増えますよ。

室戸高校が、生徒数が増えたのは、ジオパークの小笠原さんの努力で、ユネスコ世界ジオパークっていうのを使って、グローバルネットワークを使ってグローバル教育をしましたよね。で、あれも人数が少ない。そこを逆手にとって、やっていってますよね。で、そういう教育のあり方で、生徒が増えるってことは、もちろん、県外、県内の、あの市内の人たちが外に流出するっていうことも防げる、県外から、ここにあえて、県外、市外からあえてここに入りたいっていうことで来てる。それって、 ひいてはですね、人口流出の防止にも繋がるし、移住者だって獲得できる可能性もある。そっちの方がはるかに前向きなような気がするんですよね。そういうものを、そういうものも含めて、すいません、これ、ただの例です。

そういうものも含めて、どうして親と一緒に検討しないのか、視点が増えれば、我々が持っている地域の視点が増えれば、 もちろん検討課題も増えるだろうけれども、あの気がつかないこと市の職員、教育長、教育委員会、市長じゃ気がつかない部分の話し、そういうものも分かってくるんじゃないかと思うんですよね。で、課長には本当申し訳ないんです

けど、前回の会議なんてただやりました、本当にただやりましたですよ。
そんな携帯化されたくない。どうする、我々の。いいですか、あなたたちは、今ここにいる時間、給料でますよね、 我々の税金から、我々一円ももらわずにここに参加して、何の議論も開示されない、何にも情報開示されない中で、はい、方向性決まりました。おかしくないですか。

（山本）

あの、今日の会、やっぱりそういうあれですか、評価ですか。

（参加者）

はい。

（参加者）

そんなことはないです。私は、初めてすごい腹を割って話しさせてもらって

（参加者）

そうです、それは私も思います。

（参加者）

来てくださったと思って、だからこそ、おっしゃるように、もっと時間かけて、その意見を警戒しないで、もっとこう、まずはオープンに拾い上げてほしいし、そうじゃないと 反対しかない、不信感しかないし。でも、こんな難しいこと、親の協力なしに成立するわけじゃないと思うんですよ、佐喜浜は、バスに乗せるにしても何にしても、子供だってそんな楽しくないじゃないですか、親が渋い顔して行かせる学校なんてもちろん嬉しい親も佐喜浜にいるかもしれないですけど、でも、いい学校やな行ってきいって言うちゃるためには、やっぱりちょっと時間も短すぎるし、今までの議論がちょっと私たちのことを、話してもわからんみたいな、だからこう、 ちょっとごまかして持っていくみたいな、そ、作戦みたいなものに、すごく、私は思ってしまうんです。だから、今日の会で初めて課長さんがこられてよかったって思います。

（参加者）

私も思います。

（参加者）

議論がきっとできるだろうなっていう期待感も含めて、きちんと、どちらの立場に立って考えてくださるだろうかっていうことも含めて、非常にこれまでの？？？先進的だと思います。

（参加者）

私も教育委員として来させていただいて、本当に真摯にこう正面から、こう受け取れてくださる、あの課長です。だから、佐喜浜の保護者さんほんとに考えてらっしゃいますよっていうことですよね、あの、させていいただいて、あ、そうですかって感じで、ほんと、受けとめてくださる。だから、話はしてください、私、信頼しています、ものすごく。

（山本）

今回のように、日にちと場所を決めてやる 地域説明会っていうのは、この今週とか来週のということになってますけれども、やはり、そういう、意見交換をしたいという要請があれば、それは受けていきますので、ぜひ、議論させていただきたいという風に思います。

（参加者）

それに対して一つ質問なんですけど、この秋までに、決めるっていうのは、必ず決めなければいけないんですか。秋までに。

（山本）

委員会としたら、この２年度から検討委員会立ち上げて、こう、その経緯を踏まえて、やはりもう、その方向性を決めるの時期にきちゅうというところはあるがですよね、１つには、その、南海トラフ地震対策というのもあってですね、もう、なかなか、こう、先へは延ばしていけないっていうとこもあるんですけど、

（参加者）

高知市内は、浸水地域でも統合とか高台移転の話にはならんですよね、全部が全部、ゆうたら避難路を確保してみたいにできる場所を？？？？、津波が来るき高台にせないかんってゆう話も私はどうかなっておもうんですよね

（山本）

２つあるがですよね、望ましい学校の規模と、南海トラフ地震対策の２つの両面で統廃合の話は始まっちゅうと思うがですよ、その両面を考えたときにやはり、佐喜浜中学校にしたら、その、津波高っていうのは、この中学はそんなに高くないですよね、国道のとこまで来たら
非浸水区域にあるっていうようなところですので、これはやはり、規模の話でいったら、10 年後に、令和 10 年のここに書いちゅうような、全学年が、10 人未満になる、そういった状況も踏まえて。

（参加者）

令和２年度から話が始まっちゅうがやったら、なんで、今日が２回目で、どうして今まで時間があったのに、もっともっと話をしてくれん、機会を設けてくれんがかなって思う。話が
決まっちゅうみたいなるけど、私らは、１番心配な、安全性の面でも、まあそのうち考えていきますじゃあ絶対、納得はできんですね。

（百田）

教育委員会としての、決定の責任は、私が背負っております。ただ教育委員会にはさまざまな予算的なことはできませんので、先ほど申しましたように、市長とのですね、意見交換、教育総合会議の中で、承認して予算の方をあげていかんと、議会で認めていただいて、準備してっていうのが基本でございます。様々なご意見がございます。今、 それぞれの各地域で１回ということにしておりますけれども、総合教育会議までにお時間を取っていただいてですね、？？？？？？？？？？？？？？？？？？あってもいいかと思います。
元小につきましては、二回を用意しておりますし、ご意見を聞く場をとってもいいかと思いますけれども、ただ基本的な方向につきましてはですね、今、次長が説明した通りでございますので、様々な、小さい、あの細かい部分についてはですね、ご意見を聞いて、変更をする場合はあるかと思いますが、大まかな方向というのはですね、私たちとしては、進めていくという？？？？？？？？？？

（参加者）

すいません、何をもって、進めていくんですか、誰の賛成をもって進めていくんですか、市長と教育長とそのなんちゃら会議のメンバーで、はい、オッケーですってゆえば、決め

ていくんですか。

（参加者）

そういうことに聞こえます。

（百田）

あのこれはですね、教育委員さんの様々なご意見があります。ただあったとしてもやっぱ教育委員会としての１つの方向性を出さなくてはいけないわけですから。

（参加者）

そこを決めるために、今我々が課長に訴えてきたこと、あの、聞いてらっしゃいましたか、そこを決めるための道筋をもう一度地域住民に入れて会議をしましょうよと。なぜ秋までに期限を切らなければいけないのか、そこを伺ったんです。

なぜ、なぜこの地域住民の、それだけ、さっきお渡しした紙、それゴミじゃないですよ、アンケートで、佐喜浜のこれから中学校に通う、保育、小学校の父兄、82 パーセント以上、反対です。何を持って進めるんですか。

何を思って進めていくとおっしゃってるんですか。それを伺ってるんですよ。

（百田）

今、このアンケートの結果を拝見させていただきました、で、いろんなですねご指摘、不安が、気持ちが、この中で示されております。それぞれに地域のご意見等ございますが、今日はこれをいただきまして、 教育委員会の方でもですね、 具体的に、どういう風にしようか、それに対してもう１回、？？？？してくいくのも一つの方法かもしれませんので、その辺りは私どもの方でですね、検討させていただきたいと思っております。

（参加者）

前回も検討させていただきますってゆって、何も議事録すら開示されてないですよね。どういうことなのかなって思って、散々たくさん質問出たと思うんです、今回も全く同じ質問がたくさん出てたと思うんです、 でも、この結論で、あの方向性が決まりましたっていう話ですよね。何をもって決まったんですか。

（参加者）

そうですね、今日ね、県庁へ行ってきちょったがです、知事さんに会いに、市長も議長も室戸市から来ていただいちょって、でその中でも、何回も、ゆうたら地域の人の、人の声を聞いてってゆう会話が何回も出てくるわけです、地域住民の話を聞いてやったりの学校の意見聞いてやっていかないかんっていう言葉がすごい飛びかいよったがですけど、室戸市の教育委員会はどう思っちゅうがやろうってゆうギャップでショックながですけど。それやったら教育長も教育委員会で？？？？？？？アンケートをみてもらって、話を一回持って帰って、教育委員会で話し合いをして、また日を改めて、話し合いをしませんかってゆうてくれたら、わかる、すごい。それはありがたい話であって、

（百田）

今このアンケートの調査結果をいただきましたので、そこが、どこまでですね、それぞれ、あとの４つのですね、各地域でもございますので、そこで、ご意見を聞いてですね、改めてですね、こういったものを、？？？？？していただくと、いうことはですね？？？？？？思っています。

明日それから来週と室戸小学校も含めてですね、全て回りますので、先ほど次長も申しましたように十分なですね、説明、あの、こういった資料にですね、随分、あの、？？？するこ？？？？大変、申し分けないと思っております、今回の、ご意見をいただきましてですね、
先ほど申しましたような話を検討をしてまいります、？？？？のご意見をですね、？？？設けるということはですね、？？？？・かたのご意見ですので、それはですね、？？？？ということは、ぜんぜん私は考えて？？？。はい。

（参加者）

すいません、今日の議論は、どういう風に市長には伝わるんでしょうか。

（百田）

いや、まだ、市長の方にはですね、それぞれの地区の、ご意見を聞いた上で、報告はいたします

（参加者）

報告はどうゆう形でなされるんですか、抜粋してなされるのか、えっと、全ての議論の議事録が、今日、録音されてるっておっしゃってたんですけど、すべてを聴取して、それを市長の方にお話しいただけるか、あの、我々的には、いいところだけ抜粋して市長に持っていかれたら誤解を招くので。

（百田）

それはですね、教育委員会？？の全体の方向性は、もちろん、決めて報告いたします。それに、

（参加者）

いや、意味がわからないです。

（百田）

いや、教育委員会としてのですね、方向性だけは決め、

（参加者）

だから、その、教育委員会の方向性は何を持って決められるんですかって、さっきから

（百田）

ですからいまそれぞれ地域にですね、説明会をさせていただいて、そのご意見を聞いた上でですね判断を、

（参加者）

我々の不信感としては、前回の説明会も、ほぼほぼ反対意見の質問だったと思うんですよね。
なのに、方向性としてこういう方向でいきますっていう方法が決まっている、じゃあなにをもって決まってるんですか。もう我々の意見を聞かなくても、

（参加者）

教育委員会としては、方向性を決めちゅうき、説明会を行っていますっていう話、？？？時間がないき？？？教育委員会としても統廃合を示さないかんき？？？？？？？？？？？

（参加者）

それじゃあ困るんですよ。

（百田）
市長の方にはですね、報告は、それぞれの地域の出たご意見も当然、添えて報告いたします。やはり初めに申しましたように、人数だけでですね、統廃合のところは決めないわけですので、初め言いましたように、それぞれの小規模の学校で本当に地域が協力して本当、先生が子供たちの努力してやってくれておるのです。それは事実なんです。
ただ、その先生方と子供たちのあの努力をプラスしてですね、例えば１つのその子供たちの力を？？？？？ですね、やはりあの一人の教員しか配置がないわけですよ。そこに
（参加者）
人数とか内容とうんぬんじゃなくって、通学路の安全とか災害の時にはどうするかってゆうのを考えてくれんとさぁ、はい、統合しましたで考えるってゆうがやったら、？？？し、距離的に絶対遠いでしょ？自転車で通わせるがですか、絶対死亡事故
（百田）
通学の方法につきましてもですね、？？？？しかございませんけれども、当然、スクールバスを準備してですね？？？？？？？？
（参加者）
それってバスは？？？？？？？？？？何往復もしてくれるってことですか、日に。
（百田）
いや、それはですね、学校の始業の時間にあわして、
（参加者）
朝練があるでしょ、部活の子とか
（百田）
それぞれの時間帯に合わして、スクールバスの設定というのは、当然、いたします。それから、避難場所のですね、ところも当然？？？？？に
（参加者）
教育長、佐喜浜に住んでみてくださいよ、災害の時それ本当に言えますか
（参加者）
台風の時！
（参加者）
台風のとき是非暮らしてみてくださいよ。
（百田）
その細かいことはですよ
（参加者）
細かいことやないがです！
（百田）
いや、ちがいますちがいます、それも含めて、細かい部分もありますので、やはりスクールバスのこととか通学路の安全性とかですねえ、そういったものは、より細かく、説明できるようなご提案を再度するというところは？？？
ただ、初めに申しましたように、それぞれの地域の事情もございますし、今後としてそういった？？？？？？具体的な内容をですね説明をさせて頂く場を設定していただいたわけです。

（参加者）
羽根、吉良川は賛成しゆうがですか。
（百田）
それは、賛成の方も反対の方もいらっしゃいます。
（参加者）
多いですか、どちらが多いですか。
（百田）
それはですね、いま、直近の分が取れておりませんけれども、？？？？？？賛成の方もおられますし、反対の方もおられますし。
（参加者）
そちらが多いんですか、だいたい
（百田）
それですね、私の方からは多い少ないは、
（参加者）
言えない、てかなんでそれ数字に？？？そこがおかしい、なんで数字に？？？これだけ反対っていう意見があって、賛成か反対かそれがどっちのからおられます、どっちの方もおるやったら、じゃあ数字で、どうせ全部数字だけでばかりされるんだったら、アンケート、今アンケートを取って、各地域の賛成か反対を我々に見せたらいいじゃないですか
（参加者）
室戸中学校を先に高台へあげましょう。その後、他の中学校に関しては今後検討していきましょうで皆さん納得しちゅうのに、10 年 3 月って日を切って出てきたことに対して、まずもって不審感がある、それは何かって言ったらいろんな意見が出たような、懸念をする、心配をする、そういう部分ができてないのに、先に日を切って方向性を決めて、それに対して後から乗っかっていきましょうみたいなやり方っていうか、それがやっぱり一定の不安というか不審をやっぱり招いてくるとこやと思うし、
（山本）
段階的にこう統合するっていうところはもう皆さん納得されちゅうがですか。最終的に統合ってゆうのは。
（参加者）
段階的にするってゆうか、その検討していきますって
（山本）
そのやっぱりタイミングっていうところも、やっぱりそろそろ詰めていかん時期
（参加者）
今後こういうことが懸念されますよっていうのがやっぱり段階的の中にあって、それを解消 していってもらいつつ、やっぱり統合せないかんねっていう、その話に順番になっていくと思うけど。
（参加者）
そのタイミングとおっしゃるんですけど、タイミングをここまでギリギリ先のばしして中身のある議論をしてこなかったのはあなた方ですよ。 我々にそれを振ってこなかったのはあなた方ですよ。なのに、ここに来て、タイミングが大事だからね、？？？をここに切っ

てです、 デッドライン、やらなければいけないって、それはすると思いますよね。ほったらかしてきたのあなた方じゃないですか、課長には申し訳ないですけど。
（山本）
日を変えてやりましょうか。
（参加者）
はい。やりましょう
（山本）
ちょっと、今はちょっと長時間になってきましたし、
（参加者）
いや、ものすごく、ものすごく学校とか子供の教育に対して、教育長だとか教育委員会とかっていうよりも、親は真剣なんですよ。 この人口が少ない中で、いかに子供たちの考える力、行動力、育んでいくかっていうのを佐喜浜の親は真剣なんですよ。だからこそ、地域全体が協力をしてその少ない子供たちの数をカバーしていこうっていう、そういう町なんですよね。そこを、言葉はあれですけど、なめないでほしい。我々は真剣に教育を議論したいんですよ。で、そこで納得して、お互い議論をして、府に落ちる、納得する、それだけの学校が室戸にできるのであれば、ぜひそっちにやりたいと思います。
だから、正直、反対か賛成かも議論を戦わせようという話ではなくて、もっと前向きな、いや、教育、こういうパターンがこういうパターンもある、 じゃあ、こういうメリットが、こうデメリットがあるよね、こういう方法もあるよねっていうのを、前向きに多くの賛成か反対なる議論にしましょうではなくて、そういう前向きな教育の議論をぜひ課長とやりたいです。
（山本）
日を変えてやりましょう。やはりその議論が少ないという指摘は、やっぱり真摯に受け止めないかんと思いますので、 それはまた、議論の場を設けますので。
（参加者）
次の時でかまんき、その室戸高校の校舎の一部を使ってできんかみたいなのを模索してましたか
プールは作らないかん、体育館作らないかんってなって、
（山本）
室高の施設の共用については、またその次の機会で詳しくお話させてもらいますけど、協議をしていく中で、どうしてもちょっと難しいっていう判断に至ったというところです。
（参加者）
自分らは中高一貫校というのもある一定その魅力ある学校づくりを室戸でしていこうとしたときに、やっぱり必要だよねと。でも、それが市教委と県教委で分かれてるじゃんないですか、管轄が、で、やっぱりそこら辺って、やっぱり今後の、地域で子供を育てていきましょうっていう中で、やっぱり、ある一定の議論というか、将来に向けての中高一貫校の可能性とか、なんかあってもええかなっていう思いはあったがよね、だから、室高の隣に中学校が建って、中高一貫校で新しい学校ができたら、ま、それはそれでっていう、その別の方向性で、こう、新しい教育の形っていうのは見えるかなっていうのはあったので、まあちょっともうその、ほら、議会でももう使わせてくれんき、くれんきんって、もうき

っちり分けられたことをいよったやか。
（山本）
使わせてくれんきっていうことじゃなくて、やっぱりその総合学科ということで、この生徒数も少なかっても、やっぱりその子供らが自分で、
（参加者）
そういう余談でこの会でありましたよと。
（高﨑班長）
そしたら、すいません、ちょっとまた別日を設けさせていただいてですね、ちょっと議論はしたいとは思いますけど、どうしても今日ちょっと最後に質問しときたいよっていう人おりましたらですね、挙手していただけたらなと思うんですが、 構いませんかね、また次のどれぐらいとか目途を。
（山本）
どなたに連絡させて頂いたらいいでしょうか。
（参加者）
髙田さんに
（参加者）
あたし、わかりました。日程を決めてもろうて、
（山本）
高田さんに連絡したら、一定、その、いろんな人に連絡行く感じですかね。
周知の、あれはまた、
今回みたいに、保護者の方全員に委員会の方から出した方が、
（参加者）
その方がいい。
（高﨑班長）
次の、開催形式として、今回みたいに、広報で周知になるとなかなか厳しいとこあると思いますんで、髙田さんとかに先に連絡させてもらった上で、例えば、その学校から配ってもらう、全保護者には絶対行くようにするとか、あとは、まあ、その、他の地区の、 あの、他の地区でも、同じように、もう１回やってくれとか、あるかもしれませんので、ま、それは、ちょっと、今週と来週の説明会終わってですね、
（参加者）
常会でも回してもらって、地域の人にも入ってもろうて
（高﨑班長）
まあ、常会であったりとか、保護者向けにあったり周知する方法は考えます。
（参加者）
今日以上に集まっていただけるよう努力します。
（参加者）
その議論をする会のときは、やっぱり、この、方向性としては変わりませんっていう教育長のご意見が、そのまま、採用されたまま議論をするということになるんでしょうか。
ぜひ、次回までになぜ秋までに期限を切らなければいけないのかってゆうのをお答えいただけたら。

（参加者）
それは、10 年に始めようと思ったら、予算付けて建てないかんきそれを、逆算したら。
（参加者）
その、10 月の期限もなんとか伸ばす、伸ばすって言ったら、あの、おかしいかもしれないですけど、その課長が矢面に立って、もう決まったもの守るだけの構図で、また集まるっていうのもなんか面白くないというか。
（参加者）
？？？？これはもうこういう方向で、もう絶対もう方向性は変わらんでしょって教育委員会として統合は決定事項であり市民の皆様の意向があってもそれは変わりません教育長がおっしゃるのならば、今の方向は？？？？？？
（百田）
いまのこれ、案がついてますよね、今お手元の資料の実施計画案がついてます。
（参加者）
いや、先ほど方向性は変えられないって
（百田）
基本的な方向性については今これです。
（参加者）
いや、そこを変えられないではなくて、そこもオープンで議論をしたいと我々は申し上げてます。
（参加者）
なんで案かってゆうたら、議会に通してない き案のままなんでしょ、議会で承認されてないき
（百田）
議会で出すわけの案じゃありません
（参加者）
いや、そういうことを聞いてるというよりも、あの、だからそういう方向性はこれで教育委員会としては決まっていますっていう、その前提でいくと、課長がその立場を守った議論をしなければいけないんですよ。そうではなくて、今後の教育のあり方なども含めて前向きな議論を我々はしていきたいと考えているので、この方向性は確実に決まったものなんですかっていう、もう決定で変えられない、事項になるぐらいの決定事項がですかっていうのを先ほどからお伺いしております。
だとしたらですね、議論する余地なくなりますよね。なので、秋までにこれを決定した、方向性として決定してる案ではなく、これを決定事項としてなぜ定めなければいけないのかっていうのを先ほどからご問させていただいてるんです。
なので、そこは伸ばせないんですか。っていうのが彼女の質問でもあり。
（参加者）
課長も教育長よりもっと上の人は市長ですか？県ですか
（山本）
県は関係ないです。
（参加者あ９

例えばこの締め切を延ばすことができる、締め切りってゆうかわかんないですけど、そこも含めてだったらもっといい議論ができると思うし、この課長さんになら聞いてもらいたいっていう親の思いも。

（参加者）

もったいない。もったいないと思います。だから、もうちょっと時間を巻き戻したいことができないか探ってもらいたい。

（参加者）

何の理由もなく賛成反対を述べているわけではなく、深く深く深く考えて、我々なりにで、もっと議論をするべきじゃないか。これ、こんな簡単に決めていいことじゃないよ。
数の議論、災害がおこるから早くせないかんきで決めていいことじゃないよねっていうところでもっと考えることいっぱいあるよね。だから、そこを一緒に考えましょうよって言ってるわけなんですよね。だけど、それを方向性は確定しているので、秋までにはそこは変えられませんって言われてしまうと、何のための議論をしているのかというところになってくるんですよね。

（参加者）

話し合いをして、折れるところお互い折れて、こういう話し合いで、こういう場合に進んでいくんでしょうけど、基本的に？？？でしか？？？のであれば

（参加者）

われわれ、統廃合をではなく教育を室戸の教育、佐喜浜の教育を前に進みたい、前に進めたい、現状維持じゃなくて前に進みたいんです。そのための議論をしましょう。

（山本）

私たちの、あの、そこはもうわかってます。で、今日のご意見を聞いて、中で、やっぱり、その、強い思いっていうのはわかりますし、で、また、その、議論が足りてないっていうのはやっぱり感じましたので、そこは、まあ、 議論の場を持たせてもらいます。で、先程言った、その方向性とか、この議論を持ってどうなるかっていうのは、ちょっと１度、もう少し整理をさせていただきたいと思いますので、、次の 意見交換の時には、その、あの、明らかにさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

（高﨑班長）

それでは、長時間になりましたので、また次の機会にですね、もうちょっとあの資料とか構えて、あともっと深い議論ができるようにしていきたいと思いますので。今日はすいません、長時間ありがとうございました。

（参加者）

ありがとうございました。